

「海から見た石見銀山」（世界遺産鞆ヶ浦周辺）を活用した人づくり

大田市（仁摩町）馬路まちづくりセンター

1 馬路地区の概要

(1)位置

大田市の西に位置し東西2キロの海辺の小さな町でJR・国道9号線があり、世界遺産鞆ヶ浦・国の天然記念物鳴り砂琴ヶ浜がある。

(2)人口

世帯275・人口514人・高齢化率55.84%と少子高齢化が進んでいる町で、0~59歳の人口が181人と将来が心配な町である。

(3)地域資源等

この地域は、左官・大工の町として地域産業がないため出稼ぎで成り立っていた地域で、事業所や保育園・小中学校もなく商店も現在は酒屋を入れ4店舗と数少ない。また、郵便局はあるが駐在所はない。

ただ、観光資源・伝統行事には恵まれており世界遺産鞆ヶ浦・国の天然記念物鳴り砂琴ヶ浜・本因坊道策生誕の地・鰻絵発祥の地・琴ヶ浜盆踊り・鳴り砂の浜での運動会などである。ただ、気質が職人が多い町なので会議や組織での動きが鈍い地域でもあるため観光資源の活用が十分出来ているとはいえない地域でもある。

2 事業の趣旨

この地域の将来の置かれた環境は、世界遺産を核に活動することが地域の活性化・存続につながる。世界遺産10周年を契機として住民と県外在住の地元出身者とで再構築し新たな地域の財産を再認識することで将来の地域のあり方について住民意識の向上をはかる。

3 具体的な取組内容

(1)資料製作

鞆ヶ浦に新たな魅力をと企画した海から見た石見銀山の遊覧だがガイド説明に統一感や裏付けが乏しいため住民による資料作りを進める。



(2)DVD製作

遊覧は、天候に左右され出航できない時が多々あり来訪者の期待を裏切ることがある。そのため、DVD製作により少しでも緩和する。また、DVD上映により学習の場を増やし意識向上にもつなげる。



(3)協力

DVD製作にあたり人口減での人材確保を県外在住者の地元出身者に協力してもらい製作。
(神戸学院大学学生放送局)

4 評価と成果

(1)住民意識の向上

資料作り・配布は住民の新たな学習の場となり地域のつながりを増すことができる。

(2)来訪者増・学習の場増

実施している遊覧ガイドの内容の充実、さらには映像化でより現実に近い印象を来訪者に味わっていただけることで、来訪者との距離が縮まりその後の繋がりが期待できる。また、地域向けのDVDも製作したので地元住民に限らず仁摩地域住民・関係各機関にも再認識・意識向上として役立つ。

(3)県外在住地元出身者との協力の一歩

地元出身者や大学生との交流は新鮮な刺激や学習の場にもなりより将来の地域のあり方への住民意識もたかまる。



会議風景



文化祭

子供広場

まちづくり会議



海から見た石見銀山講座
報告会



5 今後の課題と見通し

地域の魅力を再認識し現状の地域をもっと知り活性化するには、という考え方に住民意識をもっていかなくては、行政サイドの小さな拠点作り（地域の自立）に向かって進めない。

地域の気質もあるが、伸ばせるところは伸ばし人材確保をもっと進めて行き、他地域との連携も力を入れていかなければならない状況である。住民意識を高め、人材育成・確保のために、地域のある資源を生かすことを模索しながら行動を起こしていかななくてはならない。

会議や話し合いばかりしては、活路は見出せない。センター自らの行動を地域住民に見せ、具体的な動きの見本をも住民に提示することが、現実的で理解しやすいのでこれを進めていくことで少しは意識が向上していくと確信している。

若者のグループもでき、動きも出てきたこの期に将来の地域のあり方を高齢者とともに計画作りし、若者が地域へ取り組む年齢まで高齢者が繋ぎ、バトンを渡すような仕組みづくりができれば、地域の存続が見通せはしまいか。

まとめ

○地域の課題に向かう意識を高める。

○ある資源を利用し人材育成・確保をする。

（若者・UI ターン・県外在住の地元出身者等）

○行政が見本を示すことで活動を促進する。

○地域の将来像を高齢者と作り現高齢者の役割を地域で共有する。



地元出身者



神戸学院大学学生放送局

（文責：センター職員 石橋哲一郎）